

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 9 月 25 日現在

機関番号：32641

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520653

研究課題名(和文) フランス語教育と人文社会科学：批判的比較論の構築と日本からの発信

研究課題名(英文) French Teaching and Human & Social Sciences : critical comparative studies and  
japanese message

研究代表者

三浦 信孝 (Miura, Nobutaka)

中央大学・文学部・教授

研究者番号：10135238

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：研究成果の概要  
日本におけるフランス語教育の振興には「フランコフォニー」と「多言語主義」の言語政策が必要だが、それとともに発信型の語学教育が必要である。発信型の語学教育にはコミュニケーション・アプローチが一定の役割をはたしてきたが、アカデミックな議論には知的コンテンツが重要になってくる。ということで、本研究ではフランス語教育と人文社会科学の連携をめざし、批判的比較論の構築と日本からの発信を課題として掲げた。批判的比較論では日本とフランスの比較研究が軸となり、日本からの発信では三浦自身がフランス語による発信を心がけ、毎年、日仏会館のフランス語スピーチコンテストに注力している。

研究成果の概要(英文)：For the development of french teaching in Japan, an philosophical approach of francophonie and multilingualism serves as fondamental framework . The communicative approach has been useful for development of conversational capacity of french learners, howevet for an further stage of academic discussion, we need un intellectuel content to speak about. So, we tried to combine french teaching and humanities & social sciences as intellectual background. On the other hand, we have to elaborate an critical comparative approach between french and japanese cultures in order to explain in french our own point of view on various issues of our contemporary societies. We organized several colloquiums in french and japanese for that purpose, and presented several papers in french. on that occasions. We have organized since 2008 the speech contest at the Maison franco-japonaise for french learners.

研究分野：現代フランス研究、政治哲学、比較文化論

キーワード：フランス語教育 人文社会科学 批判的比較論 フランス共和主義 言語の三角測量 ルソー研究

## 1. 研究開始当初の背景

私は1995年4月に中央大学文学部仏文科に奉職して以来、以下の科研費を受けてきたいずれも基盤研究(C)で研究代表者としてである。

1997年度～1999年度「フランコフォニーと多言語主義に関する理論的・実証的研究」

2001年度～2003年度「多言語主義・多文化主義の国際比較研究：フランス共和国モデルを中心に」

2005年度～2008年度「アジアの地域協力による非仏語圏におけるフランス語教育振興策の研究」

日本におけるフランス語教育振興のため、フランスコフォニーと多言語主義の言語政策だけでなく、フランス語によって表現される知的メッセージを析出する必要があると考え、共和国思想を中心に研究してきた。その一連の研究成果を受けて、現役教師最後の3年間の研究のため以下の科研費を申請し採択された。

2012年度～2014年度 基盤研究(C)「フランス語教育と人文社会科学：批判的比較論の構築と日本からの発信」(研究代表者)

2012年度～2014年度 基盤研究(B)「ルソーと現代デモクラシー」(研究分担者、研究代表者は川出良枝)

## 2. 研究の目的

2012年度～2014年度の科研費「フランス語教育と人文社会科学：批判的比較論の構築と日本からの発信」には以下の二つの研究目的があった。

(1)フランス語教育と人文社会科学の連携をはかり、フランス語教師の知的教養を広げるとともに、フランス系人文社会科学研究者におけるフランス語教育への関心を高めてもらい、フランス語教育を支える人材の層を厚くする。

(2)フランス語の学生の発信能力を高めるためには、フランス語教師自身の発信能力を高めなければならない。そのためにはフランス語を通して学んだ概念や方法を日本の文化や社会の分析に適用し、比較文化的視座から日本についてフランス語で発信する機会を増やさなければならない。

## 3. 研究の方法

中央大学では人文科学研究所の二つの研

究チーム「ルソー研究」(主査・永見文雄)と「批判的比較文化研究」(主査・三浦信孝)を拠点に研究する。

常務理事をつとめる公益財団法人日仏会館では、各種講演会、セミナー、シンポジウムを組織して、時にはみずから研究発表を行い領域横断型の研究交流をはかる。

フランスなど海外でのシンポジウムに積極的に参加して、研究発表・研究交流を行う。

## 4. 研究成果

研究期間の3年間に私は以下のシンポジウムを日仏会館で組織し研究発表を行った

2012年9月14-16日 国際シンポジウム「ルソーと近代：ルソーの回帰・ルソーへの回帰」(中央大学・日仏会館共催)

2013年10月5-6日 日仏シンポジウム「両大戦間における日仏協力の新段階」(日仏会館主催)

2014年4月19-20日 日仏シンポジウム「日仏翻訳交流の過去・現在・未来」(同シンポジウム組織委員会と日仏会館の共催)

2014年6月28-29日、日仏文化サミット「変化する世界と日仏関係の未来」(日仏会館と在日フランス大使館の共催)(88ページの報告書を編集し2015年3月に刊行した)

本研究の成果として発表した諸々の論文で、私は以下のような認識を表明している。

日本におけるフランス語教育は従来フランス語フランス文学会とフランス語教育学会が両論となって支えてきた。しかし、英語中心のグローバリズムの時代にあって、日本におけるフランス語教育とフランス研究を全体として振興するには、研究対象をフランスに限定せず仏語圏(フランコフォニー)に広げること、フランス研究を語学文学に限定せず、思想や歴史など人文社会科学との領域横断型連携をはかること、フランスの文化と社会を日本との比較のみならず、英語圏、ドイツ語圏、さらにはアジアとの国際比較のなかで批判的に検証すること、の三つが必要である。今後はバイラテラルだけでなく、川田順造の唱える「文化の三点測量」に加え「言語の三角測量」を方法論として導入し、「文化の翻訳学」を確立していかなければならない。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 12 件)

(1)邦語論文

三浦信孝「日仏翻訳交流と言語の三角測量」,中央大学『紀要 言語・文学・文化』No.116, 2015, pp.1-27

三浦信孝・永見文雄「安部内閣による解釈改憲は立法主権の篡奪である—ルソーの国法諸原理に照らして考える」,中央大学『仏語仏文学研究』No.47, 2015, pp.207-222

【エッセー】三浦信孝「フランスの 1・11 は 9・11 を反復しない」,白水社『ふらんす』編『シャルリ・エブド事件を考える』,2015, pp.74-78

三浦信孝「なぜ《両大戦、日仏関係の新段階》なのか?」,日仏会館『日仏文化』No.83, 2014, pp.3-11

三浦信孝「欧州統合とフランス—2012 年の回顧と展望」,中央大学『仏語仏文学研究』No.45, 2013, pp.137-147 (『季論 21』No.18, 2012 年秋号掲載の原稿を補足改稿)

【エッセー】三浦信孝「ジュネーヴ便り、文化の翻訳考」,白水社『ふらんす』2012 年 4 月号から 1 年間 12 回連載、毎回 2 ページ (2) 仏語論文

(2)仏語論文

Nobutaka Miura, « Triangulation des langues : autour de la traduction du *Contrat social* de Rousseau par Nakae Chomin », 中央大学『仏語仏文学研究』No.46, 2014, pp.243-254

Nobutaka Miura, « Présentation de l'université Chuo devant l'AUF-Confrasié », 中央大学『仏語仏文学研究』No.45, 2013, pp.137-147

Nobutaka Miura, « Qu'est-ce qui a changé en 1968 et en 1989 au Japon? ou chronique d'une mort annoncée de la démocrate d'après-guerre », 中央大学『紀要 言語・文学・文化』No.112, 2013, pp.103-120

Nobutaka Miura, « Un regard politique sur la diffusion et la réception du français au Japon », in Véronique Castellotti (dir.), *Le(s) français dans la mondialisation*, EMW éditions, 2013, pp.59-69

Nobutaka Miura, « Intellectuels francophones du Japon moderne et contemporain : Nakae Chomin (1847-1901) et

Kato Shuichi (1919-2008) », in *La lettre du Collège de France*, 36, mai 2013, pp.40-41

〔学会発表〕(計 9 件)

第 1 回フランス語世界フォーラム (2012 年 7 月 2-6 日, カナダ・ケベック市) での招待講演 Nobutaka Miura, « S'enrichir de la diversité linguistique » のほか、2012 年には仏コレージュ・ド・フランスとジュネーヴ大学、2014 年にはブリュッセル自由大学に招かれ講演や研究発表を行った。ただし上述の招待講演は活字にしていない。

雑誌論文のうち邦語論文の、仏語論文のはいずれも研究集会での発表ないし客員教授としての講義にもとづく。

〔図書〕(計 4 件)

西永良成・三浦信孝・セシル坂井共編『日仏翻訳交流の過去・未来—来るべき文芸共和国のために』欧州統合とフランス」大修館書店, 2014, viii+321p

永見文雄・三浦信孝・川出良枝共編『ルソーと近代：ルソーの回帰・ルソーへの回帰』風行社, 2014, 426p

アントニオ・ネグリほか著、三浦信孝訳『ネグリ、日本と向き合う』NHK 出版, 235p

ブリュノ・ベルナルディ著、三浦信孝編・永見文雄ほかと共訳『ジャン=ジャック・ルソーの政治哲学：一般意志・人民主権・共和国』勁草書房, 2014, 224p

〔産業財産権〕  
出願状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

三浦信孝のホームページ (<http://nobutakamiura.jp>) を 2015 年 3 月に立ち上げ科研費研究成果の項目を設けたが、これから充実させていく。

## 6．研究組織

### (1)研究代表者

三浦信孝 (MIURA Nobutaka)  
中央大学・文学部・教授

研究者番号：10135238

### (2)研究分担者

( )

研究者番号：

### (3)連携研究者

( )

研究者番号：